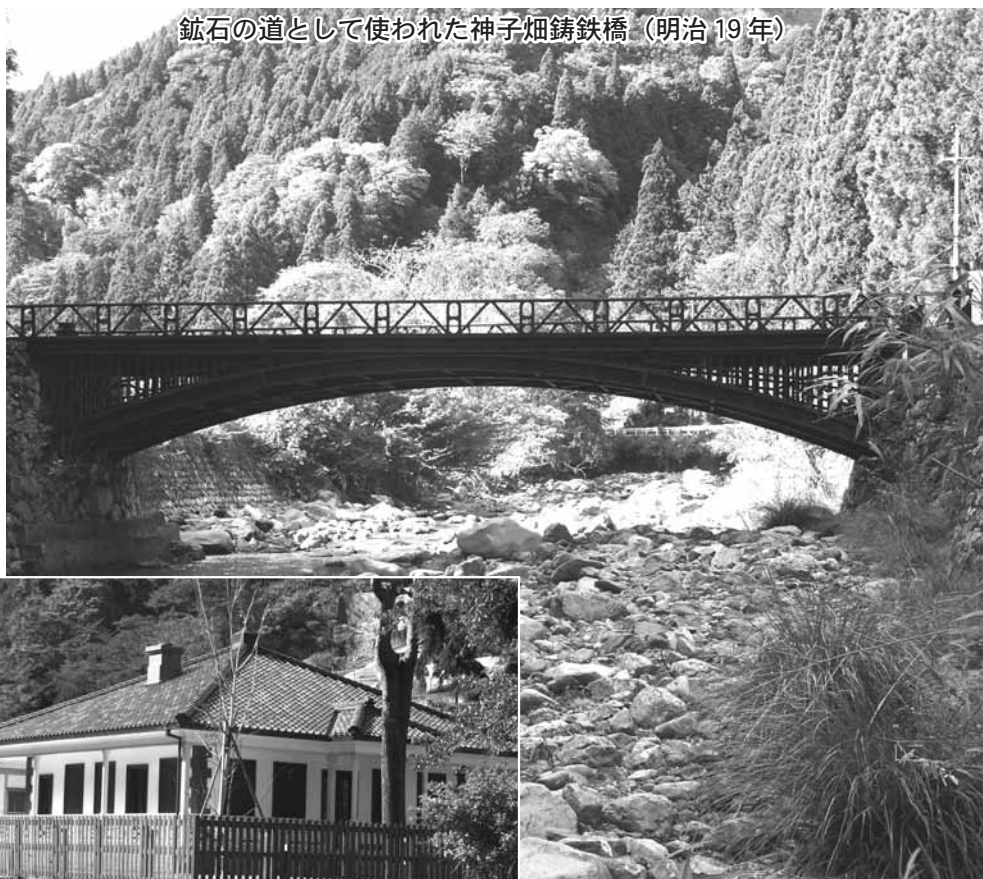


# 日本の近代化を支えた

## 朝来市の遺産



鉱石の道として使われた神子畑鑄鉄橋（明治19年）



ハマ一七旧居（明治初年）

### 近代化遺産ってどんなもの？

近代化遺産とは、幕末から第二次世界大戦終了までの約八十年間、日本が近代化を遂げていく過程で近代技術を用いて造られた産業や交通などに関係する建築物などのことを言います。代表的なものとして、富岡製糸場（群馬県）や横須賀造船所（神奈川県）、八幡製鉄所（福岡県）、舞鶴赤れんが倉庫群（京都府）などがあり、昭和五十二年に近代の橋梁として全国で初めて国重要文化財に指定された神子畑鑄鉄橋も有名です。

明治以降、飛躍的に近代化の道を進んだ日本は、外国人技術者の指導などによってこうした建築物を作りながら大きく技術革新し、今日のような経済大国となりました。

これまで、近代化に貢献してきた歴史遺産に対する理解は十分ではなく、保護対策もあまり進められてきませんでした。阪神・淡路大震災以降に登録文化財制度の導入などによって、ようやく注目されるようになりました。



生野鉱山事務所（旧混こう所・明治8年）

### 日本を代表する特徴的な生野鉱山

生野鉱山の近代化は早くから進められ、明治元年（1868）には、フランス人お雇い技術者のコワニエらが生野鉱山に着任して、近代技術を導入した鉱山開発を進めました。工場や動力用ダム・水路、物資輸送用道路や洋館・官舎に至るまで様々な産業施設が建設され、日本を代表する近代的な鉱山となりました。

生野鉱山が重要とされる理由は、神子畑や養父市明延地区にまで及ぶ巨大かつ膨大な近代工場群によって構成される鉱山遺構だけでなく、口銀谷地区などに江戸期より形成されてきた鉱山町の町並みが、トロッコ道やカラミ石、社宅など産業遺産群と混在して一体となった独特の景観を形成し